

お札と切手の 博物館 ニュース

Banknote and Postage Stamp
Museum News

Contents

- 令和4年度第1回特別展
『お札探偵団 お札のウラの謎にせまる』より
裏面から探るお札のデザインコンセプト
- シリーズ 世界のお札と切手をたずねて④

2022/12/1
Vol. 51



令和4年度第1回特別展『お札探偵団 お札のウラの謎にせまる』より

裏面から探るお札の デザインコンセプト



令和4年7月20日から8月28日の間、お札の裏面に注目した展示を開催しました。

その1コーナーで日本のお札の裏面の仕様について、その歴史の変遷を解説しました。

ここでは、改めてその変遷を追いながらお札の裏面がどのような観点で作られてきたのかについて考察したいと思います。



展示風景



展示風景

関心の所在

「表」という言葉が主だったもの^{おもてめん}のことを意味するとおり、お札の表面には重要な要素（額面文字と数字、発行元、模様（肖像など））が含まれ、なにより人物肖像が描かれていることから、事実上お札の「顔」となっています。それに対して裏面は、額面や発行元は枠模様を兼ねた形で配置され、表面に比べて地模様の面積が広い印象です。

この表裏の違いは何によるものなのでしょうか。

お札には、偽造防止の観点から様々な技術が搭載されているほか、デザイン決定についての詳細は非公表となっています。ここでは、お札の仕様の変遷について表面との関連も含めて概括してみたいと思います。

裏面の変遷

日本のお札の歴史は江戸時代に始まり、明治時代に製

造技術の近代化がなされました。それに伴い、その姿は西洋のお札と同様のものへと変化を遂げ、現在に至ります。

お札の表記に注目すると、江戸時代は、墨書き及び印刷による額面や発行年、発行元などが記されています。なかには漢詩や和歌のほか、古典から採った銘文を通じて紙幣の沿革や紙幣がもたらす徳を説いているものがあるのが特徴です。

また、表記の仕方は千差万別でどちらかの面にしか書かれないというような区別はないものの、裏面が白紙のものが散見されます。

明治を迎えると、太政官札に代表されるような最初期のお札は前代の技術で製造され、その様式も同様と言えますが、裏面には専らお札の発行目的や通用期限が記されるというように、表裏面の表記の別が現れるようになります。

その後、明治期中期までのお札は発行元、額面、兌換文言（正貨（貨幣）と交換できることを示す文）などの

文字が主体となり、飾り模様とともに描かれるという仕様
のものが多く見られるようになります。表面の日本語に対
して裏面は英語という区別がなされているものも(図1)
もありました。

昭和17(1942)年、正貨と交換できることでお札の通
貨的価値を担保していた兌換制度が廃止され、お札の
発行量を調整することで価値の安定化を図る管理通貨
制度に移行したことをきっかけに、翌年発行のお札から
兌換文言の表記がなくなり(図2)、表面とほぼ違いがな
くなります。このように、お札の表記は額面や発行元と
いった基本情報以外のものは法制度と密接に関わって
いることが分かります。

一方、模様はというと、江戸時代には細かく吉祥柄
が描かれるものが多くありましたが、明治時代に入り、
大蔵省紙幣局(国立印刷局の前身)によって完全国産
化された国立銀行紙幣(新券)(図3)では、西洋式の大
きな絵柄が描かれました。そして、明治20(1887)年に
表面の肖像候補が決定されたのちに発行されたシリー
ズでは、表面の肖像と関連する絵柄が描かれたものが
出現しています。その後、表裏で関連性のある図柄を
描いたお札は、断続的に発行されましたが、昭和20年
代を最後に見られなくなりました。

裏面の仕様に大きな変化が生じたのは、明治43年発
行の日本銀行兌換券乙5円(図4)です。写真製版技術
を悪用して旧券が偽造されたことを受け、写真で再現で
きないよう淡い色調の模様とし、複雑な模様を刷り重ね
ることで、偽造抵抗力の向上が図られました。

ちなみに空欄を設けてすかしを入れるのも偽造防止の
新たな試みでしたが、^{かんば}芳しい評価が得られず、次のお札
には採用されていません。

このお札において地模様が初めて裏面にも採用され、
それ以降、非常時を除いて地模様が用いられるようにな
ります。現代に近づくにつれ技術的進歩による多色化やマ
イクロ文字(図5)・潜像模様(図6)といった偽造防止技
術が組み込まれるようになりました。



図1 日本銀行兌換銀券改造 10円 裏面
明治23(1890)年



図2 日本銀行券い10円 裏面
昭和18(1943)年



図3 国立銀行紙幣(新券)1円 裏面
明治10(1877)年



図4 日本銀行兌換券乙5円 裏面
明治43(1910)年



図5 日本銀行券E5000円
裏面部分
平成16(2004)年

裏面からみた日本のお札の デザインコンセプト

お札の裏面の仕様を振り返ると、偽造防止対策は表面に比べ後発的であり、表記については表面の仕様に左右されるとともに情報補完の役割を果たしてきました。その関係性から言えば、表面が重視されてきたことを表しています。

また、図柄においてはシリーズごとに共通性が見られるものの、表面との関連性の有無はその時々で異なり、一貫していませんでした。

ところで、美的造形としてのデザインは、視覚を通じてメッセージを伝える役割を果たすものです。お札の場合は通貨としての価値や信頼性のほか、公的印刷物としての威厳や品格を視覚的に伝える働きをしています。それ以外にも偽造防止や機能性をも勘案したものとする必要があります。

日本のお札のデザインを説明するときには、表面や裏面というくくりではなく、そこに描かれる肖像や唐草模様、彩紋模様(地模様に使われる幾何学模様)など、モチーフ単体について語られることが専らです。それは、外国紙幣(図7)に多く見られるようなデザインテーマが設定されていないことが理由です。デザインテーマ設定の目的は、国内外に自国をアピールすることであり、お札に広告ツールとしての機能を期待してのことですが、日本のお札にデザインテーマが設定されていないのは、特定の模様が継承されていることと関係があります。

日本は、明治時代に芸術性のある偽造防止技術として肖像と彩紋模様を導入し、前時代から引き継がれてきた唐草模様がお札に用いられ続けてきたことで、これらがお札を体現するモチーフとなりました。さらに、日本のお札が世界的にも偽造発見数が圧倒的に少ないという確かな製造技術を背景にお札に対する信用の証ともなっています。

このように、これらのモチーフが絶対的に存在することから、自国を表すために券面全体のデザインテーマを設



図6 日本銀行券E10000円 裏面部分
平成16(2004)年



図7 主要輸産物のバニラ、コメ、ライチ(デザインテーマ:マダガスカルの富)
マダガスカル 20000アリアリ 2013年

定するのではなく、肖像や裏面の絵柄で表現するという限定的なものとなったと考えられます。

お札のデザインは、時代を経るにつれ、通貨としての信用保証や偽造抑止、自国のアピールと多岐にわたる目的のもと作られてきました。2024年上期に発行予定の新銀行券においてユニバーサルデザインという観点が新たに加わり、お札の利便性を向上させる役割も担うこととなりました。

(学芸員 松村記代子)

■表紙のお札の表面はこちら



①日本銀行兌換券 乙5円
明治43(1910)年



②改造紙幣1円
明治14(1881)年



③日本銀行兌換銀券 改造10円
明治23(1890)年



④フィリピン 500ペソ
2020年

世界の お札と切手を たずねて④

●ペルー アンデス文明の誇り



図1 チャビン・デ・ワンタル遺跡を描くお札 50ソル(裏) 2009年



図2 鐘形土器
4セントアボ
1938年



図3 ビューマ
5ソル 1938年



図4 ジャガー
(雨、雷、太陽の擬人化)
2ソル 1938年

一方、遺跡の中でも特に知名度の高いマチュ・ピチュもお札に描かれています(図7)。標高2500メートルの山中にあり、「空中都市」とも呼ばれるマチュ・ピチュは、高度な文明が栄えたインカ帝国の都市遺跡で、16世紀のスペイン人による征服から逃れるために作られたともいわれていますが、いまだに謎が多く残る名所となっています。

なお、ペルーはジャガイモの原産国で、8000年以上前から栽培が行われてきたといわれています。当地で世界ジャガイモ会議が行われた際にも、マチュ・ピチュがシンボルマークとなりました(図8)。

ペルーは、日本とも縁の深い国です。中南米の国々の中でも最も早く1873年から日本と外交関係を結んでいます。日本人が多く移り住んだ国でもあり、長く友好関係を続けてきたことから、これを記念した切手が日本で平成11(1999)年に発行されています(図9)。ここでも、ペルーを代表、象徴する事物としてマチュ・ピチュが描かれています。

アンデス文明が発展したペルーには、数々の遺跡があり、現在ペルーで使われているお札(全5種)すべての裏面に取り上げられています。これらは、数千年にわたるアンデス文化の歴史の証明であり、世界遺産に登録され主要な観光地となるなど、国内外にその価値を認められています。

その一つが、アンデス文明のうち最初期に形成されたチャビン文化の遺跡です。紀元前1000年頃に造営されたチャビン・デ・ワンタル神殿が出土品とともに描かれています(図1)。チャビン文化は宗教性が強く、翼のあるネコ科(ジャガー)の動物や鳥、蛇などの模様を彫った石柱などが残されており、切手にも数多く登場しています(図3~6)。また、^{あぶみ} 鐘に似た独特の形の土器も使われました(図1矢印部分、図2)。



図5 鳥 1.50+1ソル 1963年



図6 ネコ 3+2.50ソル 1963年



図7 マチュ・ピチュを描くお札 10ソル(裏) 2009年



図8 「第10回世界ジャガイモ会議」
4ソル 2018年



図9 マチュ・ピチュを描く日本切手
「日本人ペルー移住100周年記念」
80円 平成11(1999)年

●メキシコ 独特のメソアメリカ文明



メキシコは、マヤ文明やアステカ文明など古代から数々の文明が興った地です。「古代遺跡」

「古代都市」の世界遺産が数多く登録されており、当地の文化には、独特のピラミッドや神殿、太陽暦の採用といった特徴が見られます。なお、メキシコのほぼ全域と中米の国々とで形成されたメソアメリカ文明と、ペルーを中心としたアンデス文明とが、アメリカ大陸の二大古代文明圏となっています。

自然、メキシコの歴代のお札や切手には古代遺跡や出土品が取り上げられてきました。その一つが、紀元前2世紀から同6世紀にかけて、メソアメリカ最大の都市テオティワカン（現在のメキシコシティ）で発展した文化です。「羽毛ある蛇」と訳され、竜のような姿をした神・ケツァルコアトルのピラミッド（図10）や、世界有数の大きさで知られる太陽のピラミッド（図11）などが描かれています。

また、14世紀ごろから16世紀にかけて栄えたアステカ王国の文化、神話にまつわる遺物も取り上げられています。

1790年、メキシコシティの工事現場で偶然発見された「太陽の石」は、お札の表面に大々的に描かれました（図12）。「アステカ暦」とも呼ばれるこの石は、直径約3.6メートル、重さ約24トンの巨大な円板です。緻密に組み合わされた複雑な模様や神々の顔が、アステカの時間（時代）の概念などを表しているといえます。

さらに1978年には、同じくメキシコシティの電気工事現場で、アステカ王国時代の大神殿テンプロ・マヨールが発見されました。そのきっかけとして、偶然発見された石板がお札に描かれています（図13）。アステカ族の守護神ウイツィロポチトリにまつわる重要な伝説を示す石板で、月の女神コヨルシャウキが彫刻されたものです。このほか、大神殿で発見された遺物は切手にも鮮やかに描かれています（図14）。



図10 ケツァルコアトルのピラミッド（テオティワカン）を描くお札 20ペソ（裏） 1976年



ケツァルコアトル



図11 太陽のピラミッド 3セントボ 1927年



図12 太陽の石を描くお札と切手
（上）1ペソ 1970年
（左）芸術と科学シリーズ 80セントボ 1973年



図13 アステカの月の女神コヨルシャウキの石板を描くお札 10ペソ（裏） 1993年



図14 （左から）コヨルシャウキ、雨の神トラロック、大神殿のヘビ「スペイン征服以前の記念碑」 5.50・1.60ペソ、80セントボ 1980年

●イギリス 追悼 エリザベス女王

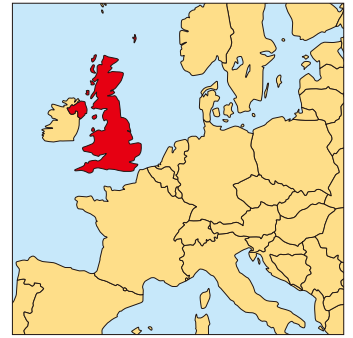


図15 エリザベス女王を描く現在のお札
50ポンド 2021年

2022年9月8日、エリザベス女王が96歳で亡くなりました。女王は、1952年の即位から70年にわたってイギリス国王として在位し、さらに、カナダやオーストラリアなど16か国の元首も務めました。これらの国々は、「大英帝国」の領土から対等の協力関係「イギリス連邦」へと移行し、結びつきが残ったもので、こうした国々や地域の数々のお札にもエリザベス女王が登場しています。

一方、イギリスは、1840年に世界で初めて切手を発行した国でもあります。万国郵便連合の取り決めにより、切手には発行国(地域)名を入れる必要がありますが、イギリスは最初の切手発行国として、例外的に国名を入れていません。代わりに、在位中の国王の横顔(肖像)やシルエットマークを入れてきました(図16、17)。

これら女王の肖像が採用されたお札や切手については、順次新国王チャールズ3世の肖像に切り替わることが発表されています。長きにわたり世界中で親しまれた女王の姿が見られなくなるのは残念ですが、イギリス本国では取り上げられなかった女王の少女時代など珍しい姿が刻まれた各国の切手(図18)を振り返って追悼したいと思います。

(学芸員 土井 侑理子)

図16 歴代の国王の横顔を描いたイギリスの普通切手



ヴィクトリア女王 (在位 1837-1901) 1ペニー 1840年
エドワード7世 (在位 1901-1910) 3ペンス 1902年
ジョージ5世 (在位 1910-1936) 0.5ペニー 1911年



エドワード8世 (在位 1936) 1ペニー 1936年
ジョージ6世 (在位 1936-1952) 1ペニー 1937年
エリザベス2世 (在位 1952-2022) 3ペンス 1952年

図18 エリザベス女王の少女時代を描く各国の切手



カナダ (左) ジョージ5世治世25年記念 1セント 1935年
(右) 妹マーガレット王女とともに 国王夫妻カナダ・アメリカ訪問記念 1セント 1939年



ニュージーランド (上) 健康切手 2+1ペンス 1943年
(下) 妹とともに 健康切手 1+0.5ペンス 1944年
(右) 王室一家 第二次世界大戦終結 2ペンス 1946年



図17 現在のイギリス切手
(左) エリザベス女王のシルエットマークが描かれた記念切手 映画「ハリー・ポッター」無額面(1st) 2018年
(右) 普通切手 無額面(1st) 2022年

COMING SOON!
展覧会予告

令和4年度 冬の特集展

お札を彩るさまざまな模様

令和4年12月20日(火) ▶ 令和5年2月26日(日)

日々使われるお札の中には、肖像や風景、額面といった模様のほかに、枠模様や地模様など多種多様な模様があります。

日本のお札の模様は、技術の進展などに関わり合いながら、時代ごとにその様相を変えてきました。

特に、枠模様や地模様は、お札の主役である肖像などを引き立てるだけでなく、お札の重厚感やその国らしさを表し、精緻に施されることによって偽造を防止する役割を担っています。

本展示では、歴代のお札や海外のお札に見られるこれらの模様を紹介し、偽造防止と装飾性を担いながら多様な変遷を遂げてきた姿を辿ります。

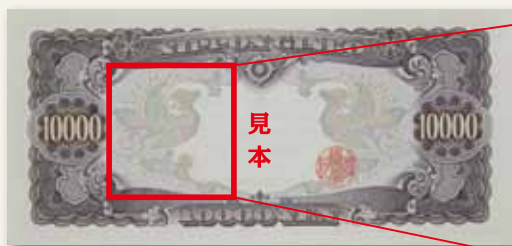


新紙幣
金10円
明治5(1872)年

ドイツに製造を委託したお札に初めて地模様が採用された。



地模様部分



日本銀行券 C10000円 裏
昭和33(1958)年

見本



平等院の鳳凰をデザイン化した模様

ご利用案内

入館
無料

開館時間: 9:30-17:00
休館日: 月曜日(祝日の場合は翌平日)
年末年始、臨時休館日

※やむを得ず開館時間等を変更する場合があります。
詳しくはホームページをご覧くださいか、電話にてお問い合わせください。

独立行政法人 国立印刷局
お札と切手の博物館

〒114-0002 東京都北区王子1-6-1
TEL.03-5390-5194
<https://www.npb.go.jp/ja/museum/>

お札と切手の博物館

検索

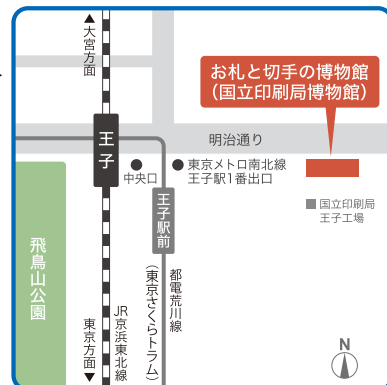
交通

JR京浜東北線「王子駅」(中央口)下車 徒歩3分
東京メトロ南北線「王子駅」(1番出口)下車 徒歩3分
都電荒川線(東京さくらトラム)「王子駅前」下車 徒歩3分
*駐車場はありません。

常設展

偽造防止技術の歴史—印刷技術・製紙技術
偽造防止技術体験コーナー
重要文化財 スタンホープ印刷機
お札の移り変わり/世界のお札/
切手の移り変わり/世界の切手/
国立印刷局の歴史/世界のめずらしいお札/
お札の芸術(休止)

*特別展開催時は一部展示の変更があります。



発行:お札と切手の博物館(国立印刷局博物館)

発行日:令和4年12月1日 ©2022

本書掲載の内容を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

※この冊子は再生紙を使用しています。